

②⑥ (様式第19号) (人工林間伐＝Sr)
○年度 里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金モニタリング結果報告書

1 活動の目標等

区分：	地域活動型（森林資源活用）
目標：	間伐により、下草が生える明るい人工林を取り戻す。 3年後の相対幹距比2.6ポイントアップしSr=15.6とし、風倒木を0本にする。
モニタリング調査方法：	① 木の込み具合調査（相対幹距比Sr） ④風倒木の本数調査

(＊モニタリング調査のガイドラインP17:人工林での目標設定(参考)を参照)

(＊モニタリング調査のガイドラインP64:相対幹距比(Sr)早見表を参照)

2 活動実施前の標準地の状況（7年度）

標準地の状況を記載	林内は過密で風倒木等が見られる。 上層木の平均樹高は16m、100m ² 当たり立木本数は23本、相対幹距比Sr=13.0。 風倒木は活動対象森林全体で40本。	
-----------	--	---

3 活動計画1年目の標準地の状況（7年度）

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は20本、相対幹距比Sr=14.0。風倒木は20本処理。	
目標達成度	相対幹距比:38.4% 風倒木処理:50%、	計算式: Srアップ [°] (14-13)÷2.6(ポイントアップ [°])=38.4% 風倒木処理 20本÷40本=50%
次年度に向けた改善策	引続き安全作業に努め、風倒木処理等と間伐を進める。	・標準地野帳を添付

4 活動計画2年目の標準地の状況（8年度）

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は18本、相対幹距比Sr=14.7。風倒木は20本処理。	
目標達成度	相対幹距比:65.3% 倒木処理:100%、	風 計算式: Srアップ [°] (14.7-13.0)÷2.6(ポイントアップ [°]) =65.3% 風倒木処理 (20本+20本)÷40本=100%
次年度に向けた改善策	引続き安全作業に努め、風倒木処理等と間伐を進める。	

5 活動計画3年目の標準地の状況（9年度）

標準地の状況を記載	林内の間伐実施後の立木本数は16本、相対幹距比 $Sr=15.6$	
目標達成度	相対幹距比: 100%	計算式: $Sr_{\text{アップ}}(15.6-13) \div 2.6(\text{ポイントアップ})=100\%$

（注）目標の設定及び標準地の状況の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。